

初年次教育学会

ニュースレター 第12号

Japanese Association of First Year Experience
at Universities and Colleges

初年次教育学会 事務局分室

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

TEL: 03(6824)9372 FAX: 03(5227)8631

E-mail: jafye-office@bunken.co.jp

事務局

明星大学 菊地 滋夫研究室内

今号の内容

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. お見舞い 2. 事務局からのお知らせ 3. 学会誌編集委員会からのお知らせ 4. 大会運営委員会からのお知らせ | <ol style="list-style-type: none"> 5. 地域活動活性化委員会報告 6. 将来構想実行委員会からのお知らせ：「2020年度教育実践賞」応募要領について 7. 総務・広報委員会からのお知らせ 8. 編集担当より |
|---|---|

1. お見舞い

会長 藤本 元啓（崇城大学）

ご勤務先の教育機関においては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、卒業式・入学式の式典中止、新年度オリエンテーション・ガイダンス・授業開始時期の延期、授業形態の変更・シラバスの書き換え等々、大変な作業に追われていらっしゃるものと存じます。通常でも新入生の受け入れや授業の準備で多忙な時期でもありますのに、さらなる過重業務を抱えることになりました。みなさまにおかれましては、どうか御身お大切にされますようお願い申し上げます。

私の勤務先のある熊本県内の大学卒業生は、入学直後に熊本地震に遭い、此度は卒業式中止の憂き目に遭いました。同情の念を禁じ得ませんが、元気に巣立ち、社会の波にもまれてたくましくなっていくものと思っております。

2020年度は、9月4日（金）～5日（土）に第13回大会を沖縄国際大学にて開催いたします。それまでになんとか新型コロナウイルスが終息していることを願い、みなさまとお目にかかり、この1年間の成果を語り合えることを楽しみにしております。

2. 事務局からのお知らせ

事務局長 菊地 滋夫（明星大学）

いつもお世話になっております。事務局長の菊地滋夫（明星大学）です。

(1) 2020年度年会費納入のお願い

お手元に2020年度年会費納入のための振替用紙が届いているかと思えます。5月31日までに納めていただければ幸いです。

幸いです。

(2) マイページ活用のお願い

2016年度からマイページの運用が始まっています。マイページからは、会員情報（所属等）の変更が行えます。4月以降、異動される方、メールアドレスを変更される方などは、ご自身で登録情報を変更することができます。年会費の納入状況もご確認いただけますので、ぜひご活用ください。

ログインに必要な「会員番号」「パスワード」は、2015年度に会員だった方には2016年3月16日頃に、2016年度以降に入会された方には入会時にお送りしたメールに記載されています。今後も必要となりますので、お手元にお控えください。

(3) 事務局の変更について

2019年6月より事務局が下記のように交代いたします。

事務局長：菊地 滋夫（明星大学）

事務局幹事：西 誠（金沢工業大学）、藤田 哲也（法政大学）、御厨 まり子（明星大学）

また、新たに鈴木浩子会員（明星大学）が事務局幹事に委嘱されました。任期は2020年4月～2022年3月となります。

引き続きよろしくお願い申し上げます。

3. 学会誌編集委員会からのお知らせ

編集委員長 川島 啓二（京都産業大学）

初年次教育学会誌第12巻第1号をお届けいたします。

このニュースレターと相前後して皆様のお手元に届くことになるかと存じます。構成は例年通りですが、査読論文については、投稿は4件にとどまり、審査の結果、そのうち事例研究論文1件が掲載という、やや寂しい結果となりました。投稿論文の母数が少なく、次号においては、学会員諸氏の積極的な投稿をぜひとも、本当にぜひともお願いしたいところです。どうか奮ってご投稿ください。

次号は第13巻第1号となります。原稿募集の概略をお知らせします。

(1) 次号第13巻第1号の発行時期について

2021年3月の発行を予定しております。

(2) 投稿論文の締切について

第13巻の投稿締め切りは2020年5月末日となります。ただし、学会誌の編集規程および論文の執筆要領に従っていない場合には、投稿論文を受領することはできません。そのような理由で返戻された論文を修正した上で再投稿する場合の期限も5月末日となります。提出期限際に投稿された論文については、規程・要領に従っているか否かの確認が期限後となり、結果的に査読対象から外れることもあり得ます。特に執筆テンプレートの利用、および図表については本文中には該当箇所を示すだけとして、図・表いづれもテンプレート末尾のページに掲載することについて、該当されるかたは改めてご注意ください幸いです。

(3) 原稿の執筆、投稿、その他詳細について

初年次教育学会のホームページに記載している「初年次教育学会誌執筆要領」「執筆テンプレート」をご参照ください。指定した書式通りでない原稿は受け付けることができませんのでご注意ください。

<http://www.jafye.org/society/regulations/shippitsuyoryo/>

(4) 投稿論文の提出先について

初年次教育学会 HP の電子投稿システムからお手続きください。

<https://iap.jp.org/jafye/post/Login>

(5) 投稿資格および1巻あたりの投稿数について

本誌に論文を投稿することができる者は、共同執筆者を含め、前年度までに入会し3月末までに会費を納入している個人会員および機関会員に限られます。また、1巻あたりに投稿できる論文の数にも定めがあります。詳細は、初年次教育学会誌編集規程第9条をご確認ください。より

多くの会員の皆様から、充実した研究論文および事例研究論文の投稿をお待ちしております。

<http://www.jafye.org/society/regulations/henshukitei/>

* 初年次教育学会誌第12巻第1号の奥付記述の訂正について

編集委員として望月由起会員（日本大学）の名前が記されておりますが、同氏は2019年度の編集委員ではございません。訂正してお詫び申し上げます。

4. 大会運営委員会からのお知らせ

大会運営委員会委員長 藤田 哲也（法政大学）

2019年度に初年次教育学会の役員選挙が実施され、新たな理事会が発足した際に、「大会運営委員会」を新設いたしました。これまでの年次大会の運営は、基本的に大会開催校の教職員が組織する「大会実行委員会」の裁量に任せられることが多く、理事会側があまり関与しないというのが実態でした。大会校独自の工夫を尊重するという側面もあつてのことですし、可能な範囲で理事会からのサポートを行ってきてはいましたが、そのサポート体制は流動的であり、責任の所在が不明瞭であったため、最終的には大会実行委員長と事務局長の判断で種々の運営について決定してきたという経緯がありました。本来的には事務局長に大会運営の最終判断を行う権限が付与されているわけではないですし、通常の事務局運営の業務が増加する時期と大会準備が佳境を迎える時期が重なることもあったため、事務局長の負担が甚大になることも懸念事項でした。そのような状況を改善すべく、理事会側でも恒常的に大会運営に責任を持つための組織として、大会運営委員会を設置した次第です。

今後は、前大会から次大会への引継ぎもより合理的になるでしょうし、大会運営上改善すべき要素に対しても取り組みやすくなると思われます。一方で、大会校で組織する大会実行委員会との業務の切り分けを明確にすることで、大会校の創意工夫によって各大会の特色を出せるという側面はこれまで以上に強調されていくでしょう。

大会運営委員会の活動も緒に就いたばかりで、まだまだこれから取り組むべき課題も山積しておりますが、会員の皆様のご理解・ご協力を仰ぎつつ、魅力ある大会運営を実現するために尽力していくつもりです。ご要望・ご意見等お待ちしております。

第13回大会について

2020年度の大会は、2020年9月4日（金）～9月5日（土）の2日間、「大学への接続保障と初年次教育」をテ

一マに沖縄国際大学（沖縄県宜野湾市）で開催されます。大会 HP は 4 月 9 日公開の見通しです。これに合わせ自由研究発表とラウンドテーブル企画の申込は 4 月 9 日から 5 月 11 日まで受付、参加申込は 6 月 9 日頃から受付を開始する予定になっております。会員の皆様多数の発表申込・参加申込をお待ちしております。大会 HP が公開されましたら改めて連絡差し上げますので、今しばらくお待ちください。大会では、発表申込と同時に発表要旨原稿も提出いただく必要があります。余裕を持って準備を進めて下さるようお願いいたします。

5. 地域活動活性化委員会報告

地域活動活性化委員会委員長 安永 悟（久留米大学）

今年度は、北陸（金沢）、久留米大学（福岡）、崇城大学（熊本）で、初年次教育実践交流会を開催しました。その概要を以下に報告します。

実践交流会は地域の実情や参加者の要望に応じて自由な企画をお願いしています。参加者や登壇者も本学会会員に限定する必要はありません。企画内容が、初年次教育に関係していれば幅広く柔軟に考えていただいて構いません。ただ、単なる講演会にご遠慮ください。あくまでも初年次教育の一環として実施している、正課や課外の授業・プログラム・取組等の成果や失敗例など、現場を担当している教職員各位の報告や話題提供、および意見交換を趣旨としています。

実践交流会を開催したいと考えている会員の皆さんは、学会事務局までご一報ください。「地域活動活性化委員会」がお手伝いいたします。

初年次教育実践交流会 in 北陸

日 時：2019 年 5 月 11 日（土）13:00～17:30

会 場：しいのき迎賓館 2F ガーデンルーム

テーマ：「専門教育課程へ繋ぐ初年次教育プログラム」

参加者：51 名

今年で 4 度目の開催となる北陸では、「初年次教育をどのようにカリキュラム全体に組み込むのか」について、教育実践例を 4 大学に報告いただきました。パネルディスカッションでは、初年次教育のカリキュラムにおける位置づけは以前とかなり変わってきていること、「学ぶ順序性」を重視した初年次教育プログラムが展開されていることを共有しました。プログラムは以下の通りです。

開催趣旨の説明 垣花 渉（石川県立看護大学）

第 1 部 実践事例報告

① 關谷暁子（金沢大学医薬保健学域）

「臨床検査技師養成課程における科目横断・教員連携による初年次科目の実践例」

② 山本啓一（北陸大学経済経営学部）

「初年次教育と専門教育を接続する専門基礎ゼミナールの導入と課題」

③ 本田康二郎（金沢医科大学一般教養機構）

「大学初年次につけた力をどう繋ぐか：初年次教育から医学教育へ」

④ 藤本元啓（崇城大学総合教育センター）

「初年次教育と専門教育との連携接続型教育カリキュラムの構築 ー大産接続を目指した実学型キャリア教育プログラムの実現に向けてー」

第 2 部 パネルディスカッション

「カリキュラムにおける初年次教育プログラムの位置づけに関する意見交換」

コーディネーター：杉森公一（金沢大学）

パネラー：關谷暁子、山本啓一、本田康二郎、藤本元啓

久留米大学

久留米大学で開催しています初年次教育実践交流会は「授業づくり研究会」または「協同教育フェスタ」と銘打って実施しています。今年度は次の 2 回が初年次教育実践交流会として認定されました。

◎授業づくり研究会（第 47 回）

日 時：2019 年 5 月 18 日（土）13:00～17:00

場 所：久留米大学御井キャンパス 学生会館ミーティングルーム 3

テーマ：「協同学習の考え方と基本的な技法を学び、明日からの授業に活用しよう：新学習指導要領の趣旨とポイントをふまえて」

参加者：60 名

アクティブラーニングの理論的・技法的な基盤となる協同学習の基礎基本を再度確認し、形骸化に陥らない対応策を、協同の精神を中核に据えて、参加者の皆さんと議論を深めることを研究会の目的としました。

1. 安永悟（久留米大学・文学部）

「協同学習の基礎基本：形骸化に対する備え」

2. 須藤文（久留米大学）

「明日からの授業に活かす協同学習：新学習指導要領の趣旨とポイントをふまえて」

◎協同教育フェスタ（第 7 回）

日 時：2019 年 7 月 20 日（土）10:00～17:00

場 所：久留米大学御井キャンパス 学生会館ミーティングルーム 3

テーマ：「協同学習と探究」

参加者：65名

高等学校の学習指導要領の改訂に伴い、これまでの「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」と名称を変え、探究の重要性が強調されています。また、探究活動は大学教育でも多様に実施されています。本フェスタでは大学におけるPBL（問題解決型学習）の実践例を中心に、協同学習の観点から探究を取り入れた授業づくりについて議論を深めました。

1. 挨拶・導入 安永悟（久留米大学文学部）
2. 理論的解説 安永悟
「協同実践力を育むLTD授業モデル:LTD基盤型PBLを手がかりとして」
3. 実践研究1 小松誠和・中村桂一郎・原樹（久留米大学医学部）・安永悟
「PBL形骸化脱却への挑戦」
4. 実践研究2 長濱文与（三重大学教養教育院）
「大学初年次における『探究的学び』をどのように実現するか？：全学必修PBL科目の実践を手がかりに」
5. 協同教育カフェ（全体交流）
ファシリテーター：須藤文（久留米大学）

初年次教育実践交流会 in 九州

日時：2019年10月26日（土）13:00～17:30

会場：崇城大学M号館303・306教室

テーマ：「初年次教育プログラムの取組と成果そして課題」

参加者：69名

熊本での初年次教育実践交流会は2014年以來の開催となりましたので、県内の熊本学園大学、熊本保健科学大学、崇城大学の3大学におけるAL型の初年次教育プログラムの取組事例の報告からスタートしました。各大学の取組の目的、内容、運営、成果、課題等について、まずは情報の共有ができればと考えました。さらに巨視的な立場から、現在の初年次教育の課題や展望に関する報告とパネルディスカッションも行いました。九州各県はもとより、遠方の東京、石川、徳島、高知からの参加もあり、質問も多く盛会でした。プログラムは以下の通りです。

趣旨説明 藤本元啓（崇城大学総合教育センター）

第1部 実践事例報告

- ① 渡邊淳子（熊本保健科学大学共通教育センター）
「熊保大チュートリアルシステム「アカデミックスキルⅠ～Ⅲ」とアカデミックスキルラボについて」
- ② 向井洋子（熊本学園大学社会福祉学部）
「「フレッシュマンキャンプ」と「基礎演習」をふまえて」

て」

- ③ 今井 亮佑（崇城大学総合教育センター）

「SOJOセミナー」と「SOJO基礎Ⅰ・Ⅱ」について」

第2部 初年次教育のあらたな位置づけ

- ① 川越明日香（熊本大学大学教育統括管理運営機構）

「深い学びを保証する初年次教育改革の取り組み」

- ② 藤本元啓（崇城大学総合教育センター）

「学士課程教育における初年次教育の位置づけ」

第3部 パネルディスカッション：これまでの初年次教育とこれからの初年次教育

コーディネーター：成田 秀夫（大正大学）

パネラー：垣花 渉（石川県立看護大学）、川越明日香、藤本元啓

7. 将来構想実行委員会からのお知らせ：「2020年度教育実践賞」応募要領について

将来構想実行委員会 山田 礼子（同志社大学）

初年次教育学会では、初年次教育に関する実践の発展とその成果の普及によって大学教育の改善に資するため、このたび、効果的な初年次教育の実践例を表彰し、学会内外に広く紹介することとしました。審査の結果、選ばれた取組については、学会大会で表彰するとともに、学会ニュースレターによる通知と学会ウェブサイトおよび学会誌での公表を行います。会員諸氏のこれまでの初年次教育実践への努力と工夫を広め、大学教育の発展に貢献する貴重な機会となりえます。皆様、奮ってご応募ください。

申請期間：

2020年3月23日（月）～2020年5月11日（月）

対象：

本学会員が申請時点までに行ってきた大学、短期大学、高等専門学校等における初年次教育に関する取組。「取組」とは、1科目、複数科目、1年次のカリキュラム全体、高大接続、初年次教育と専門教育との連携、正課外の活動等を含む。

申請者等：

本学会の個人会員または機関会員。個人単独あるいは複数による申請、また、組織による申請も可。取組の担当者等に非会員が含まれることはかまわないが、氏名を記載できるのは会員のみ。なお、本学会理事による推薦を受けた場合、被推薦者に応募の意思を確認したうえで申請書を求める。

申請の手順：

- (1) 申請者は、所定の申請書を作成し、本学会事務局に申請期間内にメールにて申請する（申請書は1部添付して提出する）。

(2) 書類選考を通過した申請者は、申請書の内容に基づき、当該年度の学会大会時にポスター発表を行う(同大会では、申請者が関連のある自由研究発表も行うことを妨げない)。

審査方法・基準:

本学会が設置する審査委員会が、独創性、適切性、有効性、汎用性、有用性の5つの観点から構成されるルーブリック(学会ウェブサイトにて公表)に基づいて審査を行い、ポスター発表者、及びポスター発表参観者からの投票結果も参考にしうえで最終的に決定する。

公表方法:

審査の結果、選ばれた取組については、次年度の学会大会で表彰するとともに、これに先行して、学会ニュースレターによって通知し、学会ウェブサイトおよび学会誌において取組の概要と審査報告を公表する。

送付先・問合せ先

初年次教育学会事務局分室
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5
アカデミーセンター
TEL: 03(6824)9372 FAX: 03(5227)8631
E-mail: jafye-office@bunken.co.jp

お詫びと訂正

2020年度教育実践賞につきまして、本学会ウェブサイト上に掲載されておりました応募要領内容に誤りがありました。既に申請書、及び資料をお送り頂きました会員の皆さまには、この場をお借りしてお詫びし、訂正致します。

尚、既に申請頂きました会員の皆さまには、再度、上記の手順に従い提出して頂きますよう、お願い申し上げます。また、郵送頂きました申請書、参考資料は返却せず、本学会事務局にて破棄させていただきます。

主な変更点は次のようになっております。

主な変更点

- ① 新型コロナウイルスの感染拡大にともない、学事日程等が大幅に変更されている現状に鑑み、申請期間を2020年5月11日(月)まで延期する。
- ② 申請に際しては、学会ウェブサイトにて再掲されている「2020年度 初年次教育学会教育実践賞申請書(改訂版)」を用いる。
- ③ 申請書は郵送ではなく、申請書を添付して本会事務局にメールにて提出する。

④ 申請の際に参考資料の提出を求めない。

8. 総務・広報委員会からのお知らせ

理事会は現在、総務・広報委員会を中心として、「初年次教育学会倫理綱領」(2019年9月7日総会承認)を研究の場面で生かすための「公正な研究を推進するための行動指針」(仮称)を検討中です。(文責:西村 秀雄)

9. 編集担当より

総務・広報委員会 西村 秀雄(金沢工業大学)

(1) 賛助会員による広告添付について

賛助会員には、年1回、会員への情報提供の際に、A4で1ページ分の広告・情報提供資料の添付が認められております。本学会ニュースレターでは第4号より、それまでのメール添付ではなく、学会ウェブに本文(このファイル)および広告データを次号刊行まで掲載します。

なお、学会および学会事務局は、これらの広告内容に関与していません。

<http://www.jafye.org/newsletter/nl12/>

(2) 実践事例の募集について

ニュースレターに掲載すべき実践事例や事例紹介などを募集しております。掲載ご希望の方は学会事務局にお知らせください。

(3) 事務局分室について

本学会では国際文献社に事務局業務の委託を行っております。問い合わせ等につきましては以下をご確認ください。

事務局分室

〒162-0801
東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
TEL: 03(6824)9372 FAX: 03(5227)8631
E-mail: jafye-office@bunken.co.jp

事務局 明星大学 菊地 滋夫研究室内

編集: 西村 秀雄(総務・広報委員会)

(2020年3月31日第1版公表。2020年4月1日訂正第2版公表)